

1. 設置の趣旨及び必要性

東北工業大学は、昭和 39 年の創設以来 2 万 7 千人に余る卒業生を輩出し、我が国、とりわけ東北地域の産業・経済の発展に大きく貢献してきた。この 40 年の間に、工学の範囲が、デバイス、システム、建造物など人間が使う形ある道具を作ることに加え、人間を中心にして人間との関係で組織、生活、環境、モノをデザインすることが広い意味での工学の中に大きな位置を占めるようになってきた。

東北工業大学は、この時代の変化に的確に対応して、社会の求める人材を育成し、社会貢献の使命を果たしていくために、これまでの単科大学から、「クリエイティブデザイン学科」、「安全安心生活デザイン学科」、「経営コミュニケーション学科（平成 19 年 6 月申請予定）」の 3 学科からなる新学部「ライフデザイン学部」を新設し、本学のスローガンである「創造から統合へ」を具現化し、高度で且つ幅広い職業人養成を目的とする。

(1) 新学部の理念・目的

『「創造から統合へー仙台からの発進ー」のスローガンのもと、豊かな人間生活を指向したライフデザイン学を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域の文化と産業の発達に寄与することを新学部の理念・目的とする。』これを踏まえて新学科の教育目標は以下に記す。

(2) 新学科の教育目標

1) 「クリエイティブデザイン学科」の教育研究目標

① 組織として研究対象とする中心的な学問分野

プロダクトデザイン学
エクスペリエンスデザイン学、
ビジュアルデザイン学

② 教育目標

人々の生活を美しく便利にする製品や情報システムを創造的に作り上げることができる人材を育成する。そのため、工学をベースとし、美的センスを持った文理融合型の教育を行う。

③ 進路

製造業、デザインサービス業、デザイナー、広告・宣伝業、ソフトウェア産業

2) 「安全安心生活デザイン学科」の教育研究目標

① 組織として研究対象とする中心的な学問分野

安全安心住居学
家政学
防災学
保健衛生学
看護学

② 教育目標

健康で文化的な生活を守り、住まいや地域社会などの基本的な生活手段を守りながら、安全で安心な暮らしと豊かな生活環境を創造することのできる人材を育成する。そのため、

工学をベースとし、家政学や保健衛生学などを取り入れた文理融合型の教育を行う。

③進路

住宅・建築・インテリア関連企業、生活用品メーカー、福祉・厚生関連企業

2. 学部、学科などの特色

- ①工学的素養を持ち、工学の多様化、社会の多面化に対応する文理融合型の学部である。
- ②高校までの課程で従来の理系、文系の枠をこえて、両者を融合した分野で活躍したい学生を教育し、多面化した社会のニーズに応える人材育成を行う。
- ③これまでも東北地域の大学の中で地域・産学連携のリーダーシップを取ってきたが、新しい学部を加えることにより、この地域の経営マインドを持った人材を育成する必要性に応える。

3. 学部、学科などの名称及び学位の名称

(1) ライフデザイン学部の名称

工学が生活に浸透しその生活のありようを著しく変化させてきた。新学部は、この新しい時代においてもものづくり技術としての工学ではなく、人間が求める理想的な生活を工学的手法によってデザインすることを教育・研究の目的とし「ライフデザイン学部」とした。

(2) 学科及び学位の名称

人と工学との接点において「美しさ」「安全安心性」「豊かさ」の三つの評価基準が重要である。そのことを踏まえて、「クリエイティブデザイン学科」の名称は、この学科が人々の生活を美しく便利にする製品や情報システムを創造的に作り上げることができる人材を育成するため、工学をベースとし美的センスを持った文理融合型の教育を行う学科であることを表わしている。学位の名称は、これを受けて学士（デザイン）とする。

「安全安心生活デザイン学科」の名称は、この学科が生活者として安全安心に関わる広範な問題を深く学ばせ、実践的な課題を通して生活の仕方や環境づくりに必須な工学的知恵と技を習得した人材を育成する。家政学や保健衛生学などを取り入れた文理融合型の教育を行う学科であることを表わしている。学位の名称は、これを受けて学士(ライフデザイン)とする。

4. 教育課程の編成の考え方および特色

(1) 教育課程編成の考え方

カリキュラムの編成は、本学の教育理念・目的の具現であり、とりわけ「各学科の特色と従来の一般教育の分野との調和をはかりつつ、入学時から卒業時まで体系的に専門の学芸に関する一貫教育を行うこと」に重きを置いたものである。

今回の新学部設置に基づくカリキュラムに関しては、

- ①平成 20 年 4 月からの二学部体制、新学科設置に伴い、本学の教育目標を再認識し、文理融合型を意識した全学科の教育の体制および課程を見直し、開講科目を厳選して編成し、教養や専門の科目群の位置づけを明確化すること。

②学生の多様性に十分対応し、学生の勉学意欲を駆り立て、学生の将来設計に役立てる教育課程の構築を図ること。

③各学科は、育て上げる学生のイメージをより明らかにさせ、その上で学生が履修計画をより立てやすいように配慮する。

ということを編成方針に掲げている。

(2) 教育課程の科目区分と比率

科目区分は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に大別されており、教養教育科目は、「一般教育および学部内共通の分野で、広く知識を授ける」科目群であり、開講メニューは学部学生に共通とし、必修、選択は各専門学科の判断に委ね、専門教育科目は、「専門の学芸を教授研究する」科目群として位置付け、各学科の自由設計を原則としている。

本学では、専門の学芸を教授するとともに、幅広い教養と人間性を持つ人材の養成を目指しており、それがそのまま科目区分として授業科目を構成している。

教養教育科目と専門教育科目の比率は、開講単位数比率では、39～43%と 61～57%であり、卒業要件単位数比率では、23～29%と 77～71%になっている。専門教育科目の配列は各専門学科の自由設計であるが、各学科ともに1年次から専門教育科目を履修し始め、基礎的分野から次第に応用的分野に進むように専門教育科目を配列しており、一方で、教養教育科目は1、2年次に限らず、3、4年次まで開講されていて、学生の成長に応じた履修の配慮をしている。本学ではこのような科目配列をくさび形カリキュラムと称していて、従来から実施している。

(3) 教養教育科目の群と科目編成の考え方

教養教育科目は、「生活と社会」、「自然と技術」、「言葉と表現」、「心と体の健康」および「学際」の各群に分けている。これらの群の明記は、一般教育や学部内共通分野で知識を授ける科目の集合を示し、各群に属する科目の位置づけを明確にするという意味合いを有している。すなわち、人の集合体を考える場合に必要な知識を授ける科目群である「生活と社会」、自然界における法則とわざとの関わり合いをイメージさせる科目群の「自然と技術」、人を理解し、自己を表現する手段としての科目群である「言葉と表現」、文字通り心と体の健康に関する科目群の「心と体の健康」、そして本科以外の活動を通して幅広い教養と人間性を持つように配慮した科目群である「学際」とからなっている。文理融合型を目指すカリキュラムは、各群に配置された科目名や学際群の編成に活かされている。

「生活と社会」群には、社会文化系や政治経済系と合わせて「現代の倫理」や「社会心理学」「メンタルヘルスとケア」など高い倫理観や、相手を思いやる心遣いのできる素養を育てようと配慮を示している。

「自然と技術」群には、数学、物理、生物学などという純学問的な知識ではなく、「数学的思考法」、「ばらつきと規則」や「生活とサイエンス」「地球環境とエコロジー」および「命と生物学」などという科目を通して、純学問分野と本学部に関連する専門分野へ融合した知識を授ける工夫をしている。

「言葉と表現」群には、「英語」を初めとして国際化に対応できる人材の養成を目指すという教育方針をふまえて、欧州語の「フランス語」や「ドイツ語」、そしてアジア語として隣国の「中国語」や「韓国語」の学習機会を設定している。さらに新たに「日本語の表現」や「プレゼンテーション」という母国語の充実に力点を置いて、表現力の向上を目指している。

「心と体の健康」群では、自らの心と体を鍛える「スポーツ実技」、その理論を学ぶ「健康論」「スポーツ・身体科学」を配置している

「学際」群の「特別課外活動」は、インターンシップ活動、研修会、見学会を通じた課外活動、運動面や文化面でのクラブ活動での成果、資格取得などについて、活動期間や成果や資格の程度に応じて単位取得の機会を与えている。また、他大学や他学部の教養教育科目も修得単位として認定する考え方を取り入れている。

（４）専門教育科目の科目編成

本学部の新設に合わせて検討したカリキュラム編成にあたり、①多様な学生に対応するカリキュラム面での配慮、②入学時から学生のライフスタイルデザインの支援、③動機付け学習、④各専門学科ごとの系、コース、群の設定、⑤各系やコースごとにモデルとなる４年間の履修計画の提示などを基本方針として改訂を進めてきた。

それぞれについては、①数学、物理、化学、生物など理系科目は、教養教育科目に純学問的知識より、専門分野との関わりの中でイメージしやすい科目として設定し、大学への導入科目的な科目として位置づけたこと、②、③低学年次の「〇〇入門」「〇〇セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」などの科目がその支援科目である、④各学科に 2、3 のコースが設定されている、⑤教育課程表にはないが、各コースを修了後の進路（就職先や専門職）が示され、そのための履修すべきモデル履修科目が計画され、公表している。

（５）教育課程の特色

教育課程の特色としてまとめると、

- ①文理融合型の大学としてのカリキュラム編成－文理融合型
- ②開講科目を厳選して編成し、教養や専門の科目群の位置づけの明確化－開講科目の厳選
- ③コースや系を示し、学習計画や進路イメージの明確化－学生の将来像とその学習計画の提示

具体的には、従来からの本学の特徴である特色点として、

- a) 入学年次から専門教育科目を学習できるくさび形学習
- b) 大学への導入科目による基礎関連知識の学習
- c) 入学時から少人数学生ごとの科目配置による指導体制
- d) 学年進行に合わせた進路支援科目の配置
- e) 他大学や他学部、他学科科目など学際科目の選択の幅を拡充

新しく導入された特色点は、

- a) 学科内にコースや系を示し、進路イメージを明確化
- b) 教養教育科目を群に分けて位置づけを明確化
- c) 開講科目をスリム化して基礎力養成に力点
- d) 進路の学習計画と将来像のわかりやすい融合
- e) 将来をイメージしながら学習できるモデル履修の表示

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) クリエイティブデザイン学科

「プロダクトデザインコース」、「エクスペリエンスデザインコース」、「ビジュアルデザインコース」の3コースを設けて教育研究目標を明確にしている。教員総数10名のうち専門は「プロダクトデザインコース」が3名（専門はプロダクトデザイン、人間工学、ユニバーサルデザイン）、「エクスペリエンスデザインコース」が3名（専門はインタラクティブデザイン、ソフトウェアデザイン、デザインプログラミング）、「ビジュアルデザインコース」が4名（専門はイラストレーション・編集、CG、彫刻・造形、デザイン史）であり、研究対象分野、及び教育課程における中核科目について適切な教員配置を行っている。それぞれのコースには実務家教員1名以上を配し、高度な実践教育ができるようにしている。

従前の工学部「デザイン工学科」の教員が8名異動した。エクスペリエンスデザイン、ビジュアルデザインの関連分野を補強するため、それぞれの分野の専門家2名を新規採用した。

(2) 安全安心生活デザイン学科

「地域の安全安心コース」、「住まいの安全安心コース」、「心身の安全安心コース」の3コースを設けて教育研究目標を明確にしている。教員総数11名のうち、専門は、建築学が3名（専門は建築防災学、建築設計、建築文化史）、家政学が2名（専門は住居計画、住居環境学）、デザイン学が2名（専門は地域デザイン、産業デザイン）、心理学が1名（専門は交通心理学）、保健衛生学が2名（専門はスポーツ社会学、運動生理学）、看護学が1名（専門は看護方法論）であり、研究対象分野、及び教育課程における中核科目について適切な教員配置を行っている。

従前の工学部の建築学科から2名、「デザイン工学科」の空間デザインコースから5名、教職課程センターから交通心理学の教員1名、人間科学センターから保健衛生学の教員1名が異動し、保健衛生学関係の教員1名、看護学関係の教員1名を新規採用した。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業条件

6-1 ライフデザイン学部

(1) 授業方法、各授業における学生数および科目配列や配当年次の考え方

授業の方法は、講義、演習、実験、実習、実技などからなり、具体的な科目ごとの授業方法は、別資料に示すとおりである。講義や演習では、一学科あるいは選択科目などでは複数学科による合同授業を実施する。実験、実習、実技においては、教育効果の観点から、単クラス、コース別など、できるだけ少人数学生に対する授業を実施する。

科目の配列に関しては、教養教育科目については、特に履修順位を意識せずに、全学年次に配列しているが、高位学年には比較的少なめに配列している。専門教育科目は、いわゆる導入科目や、各専門分野の基礎科目を初年度から配列して、基礎学力を高めながら、各分野の動機付け学習ができるように配慮している。高位学年になるほど、各分野の応用科目を配列し、また、基礎科目でも理解度を高めるための、演習・実習・実験系科目や専門的な実験・実技系科目は、履修順位に配慮して配列している。

(2) 履修指導方法

学生の履修については、各 Semester 開始時の履修登録の際に、クラス担任や指導教員が、学生を個々に指導する。その際に、各学科の各コースあるいは各系さらにその延長上の卒業後の進路など学科で提示している履修モデル（資料 1 参照）を参考にする。

履修登録の単位数については、進級や卒業条件を十分にクリアすることはもとより、目標単位数に到達するように指導している。目標単位数は、各学科、各学年ごとに数値を示し、履修計画の目安となる。

(3) 卒業条件

各学科の卒業条件をまとめて添付した。他大学や他学部の修得単位は、教養教育科目および専門教育科目のそれぞれで学科ごとに定めた最大単位数の範囲内で認められる。

6-2 クリエイティブデザイン学科

(1) 授業方法、各授業における学生数および科目配列や配当年次の考え方

前記の教育目標を実現するためには、“デザイン”という対象に興味を抱き、問題意識を持って専門の知識・技術・技能を身につけることができるようにしなければならない。そのために、モノづくりの基本となる工学的な知識を身につけつつ美的センスを磨くことができるよう、文理融合型でかつ実践と理論を融合させた教育課程とする（資料 1 参照）。そのために、次のような工夫をしている。

1) 全体の構成

教養教育科目と専門教育科目をいわゆる“くさび形”になるように構成する。そうすることによって、次のような利点がある。

- ①低学年より専門教育科目を課すことで、学習に対する意欲を高めることができる。
- ②教養教育科目を高学年でも履修できるようにすることで、低学年時の負担を軽減できる。

2) 教養教育科目

幅広い知識と豊かな人間性の育成のため、「生活と社会」「自然と技術」「言葉と表現」「心と体の健康」という教養カテゴリーを設け、偏り無く幅広く学習できるようにする。文理融合型の知識を身につけるため、「生活と社会」カテゴリーでは社会や人々の多様性の理解など、「自然と技術」カテゴリーでは科学的・数学的な思考方法などを理解し実践できるように配慮する。さらに、「言葉と表現」カテゴリーでは適切なコミュニケーション能力を身につけることを重視して「日本語表現」を「英語」とともに必須科目として開講する。さらに、「プレゼンテーション」や「ビジネスマナー」など他者との共同作業がすみやかにできるような能力を身につけられるようにする。「心と体の健康」カテゴリーでは、キャンパス内の多様な運動施設を利用した実技などができるようにする。

3) 専門教育科目

高度な専門技術を習得させるため、次のような教育方法とする。

- ①自発的に考える力を修得させるため、実践すなわち実習を中心に据えた構成とし、実践の中で理論の理解・修得ができるようにする。十分な実習時間を確保するために、科目数を精選し絞り込む。

- ②1年次に共通の専門教育科目を履修し、2年次より興味に沿ったコースを選択履修することで、よりスムーズに専門性を深めることができるようにする。理論系科目は3コース共通にすることで、社会の変化に対応できる幅広い知識を習得し、かつ興味の不一致が発生した場合のコース変更にも配慮する。
- ③「プロダクトデザイン」「エクスペリエンスデザイン」「ビジュアルデザイン」の3コースを設置し（各コース30名程度）、実習・研修においてコース毎の独自課題とすることでそれぞれの高度な専門性に対応する。それぞれのコースでは実務家教員を配置するとともに、関係する産業界から兼任講師を招いて、最先端の技術・技能を習得できるようにする。
- ④3年次後期からはさらに専門性を高めるために、個々の教員が指導する研究室に配属し（各研究室8～9名）、調査・計画から制作・検証までを一貫して行う課題および卒業制作・研究に取り組む。卒業制作・研究は、社会とのつながりを意識させる指導を行い、また完成品はせんだいメディアテークなどの公共の場で発表し、社会からのフィードバックを得られるよう配慮する。
- ⑤1年次の共通の専門教育科目は、大きく2つに分けられる。一つ目は、3つのコースの特徴を理解させ興味を持たせる科目：デザイン対象、必要技術等を理解させる理論系科目（プロダクトデザイン論Ⅰ、エクスペリエンスデザイン論、ビジュアルデザイン論）及びそれぞれのコースの特色を3つの課題で実際に体験するデザイン基礎演習である。二つ目は、表現するための基礎的な理論および技術を学ぶ科目：造形基礎論、造形演習Ⅰ、造形演習Ⅱ、モデリング演習、デッサン演習等である。
- ⑦1年次のデザイン基礎演習から卒業制作・研究まで一貫して、生活や社会の中に出て行き先人の創造した美しく生活を便利にするものを知ること、課題を自ら探し解決方法を創造し続けること、創造した成果をプレゼンテーションし教員や仲間ときには社会から批判を受けてより高い解決方法を創造し続けることを指導する。
- ⑧1年次から2年次にかけて個々の学生の興味への把握と生活および進路の指導を行なうために、少人数教育科目（8～9名）のデザインセミナーⅠ～Ⅲを設ける。

4) 特別課外活動について

教養教育科目と専門教育科目の中に「特別課外活動」を置き、それぞれいずれも最大4単位までを教養教育科目および専門教育科目の卒業条件の単位として修得することができるようにする。教養教育科目にあつては、教養教育科目に関連の深い課外活動に対して、専門教育科目にあつては、専門に関連の深い資格取得、検定等の合格および学科が指定する課外活動に対して学生本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、単位認定を行う。学科が指定する課外活動としては、企業実習やインターンシップへの参加、各種デザインコンペへの応募などがある。

5) 他学科、他学部および他大学における授業科目の履修について

他分野の学際的知識を吸収できるように、ライフデザイン学部の他学科で開講されている科目、および工学部の各学科で開講されている科目の中から学科で指定する科目のうち、最大8単位までを専門教育科目の卒業条件の単位として修得することを認める。また、単位互換制度を共有する他大学で開講されている科目から、2単位までを専門教育科目の卒業条件の単位として修得することができるようにする。

(2) 履修指導方法

1年次は少人数ゼミナール（8～9人）で各 Semester 開始時に履修指導を行う。1年終了時に、1年間の講義及び演習の成果とそれぞれの興味および将来の進路の希望に即して「プロダクトデザイン」「エクスペリエンスデザイン」「ビジュアルデザイン」の3つのコースから1つを選択する。

2年次および3年次は各コースで各 Semester 開始時に履修指導を行う。また、夏休みや春休み期間を利用した企業や外部組織におけるインターンシップにも積極的に参加するよう指導する。3年次後半からは学生の希望に即して教員それぞれの研究室に学生を配属し（8～9人）、より高い専門性の視点から履修指導を行う。

4年次は引き続き研究室の担当教員が進路も見据えて履修指導を行う。

(3) 進級・卒業条件

①2年次から3年次への進級条件

教養教育科目 20 単位以上（必修 12 単位含む）、専門教育科目 38 単位以上（造形演習 I・II、デッサン演習、デザイン基礎演習、デザイン実習 I・II を含む）合計 60 単位以上の修得を進級条件とする。

②3年次から4年次への進級条件

教養教育科目 30 単位以上（必修 12 単位含む）、専門教育科目 68 単位以上（造形演習 I・II、デッサン演習、デザイン基礎演習、デザイン実習 I・II・III・IV を含む必須 40 単位以上）合計 98 単位以上の修得を進級条件とする。

③卒業要件

教養教育科目 34 単位以上（必修 16 単位含む）、専門教育科目 90 単位以上（必須 61 単位含む）合計 124 単位以上の修得を卒業要件とする。

6-3 安全安心生活デザイン学科

(1) 授業方法、各授業における学生数および科目配列や配当年次の考え方

前記の教育目標を実現するためには、生活者の視点から安全安心に関わる広範な諸問題の学びに意欲的に取り組みながら専門の知識、技術、技能を身につけることができるようにしなければならない。そのために、防災学や建築学などの工学をベースとし、家政学や保健衛生学および心理学などを取り入れた文理融合型の教育を行い、実践的な課題を通して安全で安心な生活デザインの知恵と技（ワザ）を習得できるようにする。具体的な内容は以下に示すとおりである。

1) 導入教育と進路支援教育

それぞれ背景の異なる多様な入学生に、安全で安心な生活デザイン学を学ぶモチベーションを高めてもらうため、1年前期に、「安全安心生活デザイン概論」を必修で履修させる。これは、各教員がそれぞれの専門の立場から具体的な安全安心生活デザインの問題をトピック的に分かりやすく講義するもので、学生を専門学習のスタートラインに立たせる入門的役割を持つものである。この「概論」と平行して導入教育の両輪をなすのが「生活デザインセミナー I」と「同 II」である。それぞれ、1年前期と後期の必修科目で、1単位ずつが与えられる。これは、全教員参加のもと、各教員がそれぞれ数人（7～8人）の学生を担当する少人数ゼミナールである。学生は、週一度のセミナーに出席して、大学における主体的な学

習の仕方を始めとするキャンパスライフ全般について担当教員からアドバイスを受けるとともに、その教員の専門に応じて、安全で安心な生活デザインの入門的課題について学習し、自分の進路と将来像の概略を展望する。

この「生活デザインセミナー」は、2年前期、後期の「同Ⅲ」、「同Ⅳ」と続く必修の進路支援科目となり、教養教育科目、専門教育科目を学ぶ中で、職業の実践事例や関係するライセンスについての講話等により、自己の適性と進路の具体的な目標を思考させる教育を行う。

2) 教養教育

本学科における教養教育は、大学生として社会人として身につけておきたい様々な分野の教養を学び、幅広い学問的視野の育成を通じて専門分野を展望させるとともに、人間性の醸成にもつなげることを目標とする。この観点から、教養教育科目を、「生活と社会」、「自然と技術」、「言葉と表現」、「心と体の健康」に分類して学生に提示し、これらの科目に対して大いなる興味を喚起させ、その重要性を認識させる。とくに、「自然と技術」では、高校で理数系の科目を履修してこなかった学生も含まれていることに配慮して、数式や解法の教育ではなく、数学や理工学の考え方や現実の生活との関係の把握などに重点を置いた教育を行う。また、「言葉と表現」では、コミュニケーション能力の涵養を重視して、「日本語表現」を「英語」とともに必修科目として開講し、読むこと、書くこと、話すこと、をそれぞれの技術ととらえ、それらの向上を図る教育を行う。

3) 専門教育

本学科は、「地域の安全安心コース」、「住まいの安全安心コース」、「心身の安全安心コース」からなる三つのコースを有している。それぞれの専門教育科目は座学科目と演習および実習の科目から構成されており、いずれも、安全安心に関わる諸問題を深く学び、実践的な課題を通して生活の仕方や環境づくりを考えるために必要な知恵と技となる科目である。ただし、これらの三つのコースは扱う範囲が広く、学生は、入学初年度から自分の専攻を決めるのは困難である。そこで、2年前期までは、とくに演習科目において、三つのコースそれぞれの基礎的なテーマすべてを履修させて自分の進むコースを選択する準備を整えさせ、2年後期から三つのコースに分かれるようにして（一コースあたり 25～30 人）、3年次の実習でそれぞれ専門の生活デザインに関する具体的なスキルを身に付けさせる。なお、このコース分けはリジッドなものではなく、3年前期頃まではコースの変更も容認可能な幅をもつものとする。このような「ゆるやかなコース制」を取ることによって、学生においては余裕を持って専攻を選択できるし、教員においても各コースの横断的な連携が取りやすくなるメリットが生じる。4年次は、さらに個々の教員の研究室に入り（一研究室あたり 7～8 人）、教員指導のもと、個人もしくは共同で特定のテーマに基づいた卒業研究または卒業制作を行い、目的設定から方法の検討とその実行および考察を経て結論に至るまでの、一連の論理的方法を習得させる。

4) 特別課外活動について

教養教育科目と専門教育科目の中に「特別課外活動」を置き、それぞれいずれも最大 4 単位までを教養教育科目および専門教育科目の卒業条件の単位として修得することができるようにする。教養教育科目にあつては、教養教育科目に関連の深い課外活動に対して、専門教育科目にあつては、専門に関連の深い資格取得、検定等の合格および学科が指定する課外活

動に対して学生本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、単位認定を行う。学科が指定する課外活動としては、企業実習やインターンシップへの参加、各種デザインコンペへの応募などがある。

5) 他学科、他学部および他大学における授業科目の履修について

他分野の学際的知識を吸収できるように、ライフデザイン学部の他学科で開講されている科目、および工学部の各学科で開講されている科目の中から学科で指定する科目のうち、最大 8 単位までを専門教育科目の卒業条件の単位として修得することを認める。また、単位互換制度を共有する他大学で開講されている科目から、2 単位までを専門教育科目の卒業条件の単位として修得することができるようにする。

(2) 履修指導方法

以上の授業の履修に関しては、卒業後の進路の例が示されたコースごとの履修モデル（資料 2 参照）を学生に提示して、1～3 セメスターまでは生活デザインセミナーの担当教員が、4～6 セメスターは各コースの担当教員が、そして 7～8 セメスターは研究室の指導教員が学生を個々に指導して、適切な履修科目の選択に努める。

(3) 進級・卒業条件

2 年次から 3 年次への進級に際して、教養教育科目にあつては必修 12 単位以上を含む 20 単位以上、専門教育科目にあつては演習系科目を必須として必修 32 単位以上を含む 38 単位以上、合計 62 単位以上を修得することを進級条件とする。また、3 年次から 4 年次への進級に際しても、教養教育科目にあつては必修 14 単位以上を含む 30 単位以上、専門教育科目にあつては実習科目を必須として必修 40 単位以上を含む 70 単位以上、合計 100 単位以上を修得することを進級条件として、学生に学習の到達目標を与える。

卒業の要件は、大学に 4 年以上在学して、教養教育科目にあつては必修 16 単位を含む 36 単位以上、専門教育科目にあつては必修 52 単位を含む 88 単位以上、合計 124 単位以上を修得することとする。

7 施設・設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

1) 教育環境整備計画

本学は 2 キャンパス体制をとっており、その一つの二ツ沢キャンパスで、届け出の 2 学科のあるライフデザイン学部の専門教育と教養教育（一部工学部の教養教育も含む）を行い、もう一つの香澄町キャンパスで、工学部の専門教育と教養教育を行っていく。それぞれ機能を分担しながら教育研究活動を行う。また、平成 15 年 10 月に、教育研究と共に大学の社会貢献の場として、仙台中心市街地に、大学サテライト・キャンパスとしての「一番町ロビー」を開設した。ここも新学部の教育の場として活用する。

大学の規模は、昭和 39 年の創設以来、逐次拡充計画を実行し、工学部に 6 学科を置き、さらにこれらの学科を基礎とした工学研究科 6 専攻に博士(前・後期)課程を置いて、その都度、施設・設備も着実に充実させてきている。

新学部が設けられる二ツ沢キャンパスには、校地 169,075 m²の中に、教室、研究室、図書

館を含む教育研究棟 3 棟（1 棟は現在実施設計中）、体育館、食堂、学生ホール、クラブ棟、運動場を備えている。香澄町キャンパスは、校地 41,707 m²の中に、教室、研究室、研究センターを含む教育研究施設棟、それに加え食堂、体育館、工場が整備されている。

また、研究施設としてこのほかに、文部科学省から平成 9 年および同 14 年に補助事業対象に選定されたハイテク・リサーチ・センターがあり、それを支える施設および装置を、両キャンパスに数カ所に分散して設置している。

「一番町ロビー」は、施設は賃貸であるが、7 階建てのビルの中の 1 階にギャラリーを、4 階にホールを有している。

本学の校地、運動場用地の面積は、「第 5 章校地・校舎等の図面」の「(2) 最寄の駅からの距離、交通機関等」に示すとおりで、これは大学設置基準に定められている基準を十分に満たしている。

2) 休息や諸活動のための空地整備状況

「第 5 章校地校舎等の図面」の「(3) 校舎等建物の配置図」に示したように、両キャンパスの各所に学生がくつろげる場を整備している。ことに活動の場としての空地は、1、2 学年次生の多い二ツ沢キャンパスに多くとられている。

屋内施設としては、二ツ沢キャンパスでは学生談話室や大食堂に学生が多く集まる。また課外活動の多くがこのキャンパスで行われるので、平成 15 年にはその拠点として第 2 クラブ棟を新築した。ここでは雨天や冬期でも活発な活動が繰り広げられている。

一方、香澄町キャンパスでは、新 1 号館の完成によって、1 号館、3 号館、5 号館、10 号館によって囲まれた広々とした中庭空間が生まれた。ここを敷地の半分が木々の下にベンチを置いてくつろぐ場に、そして残りの半分以上を大学祭他の催事に活用できる舗装面の広場として整備していく。屋内施設としては、平成 14 年に 10 号館の 1 階に tohtech FORUM が設けられた。ここはキャンパスの中央部にあたる位置で、2 階分の吹き抜けの広々とした自由空間であるので、昼休みなどは多くの学生が集まって、昼食をとりながらのんびりくつろいでいる。また 18 年度に完成した新 1 号館には、広くて明るい学生談話室 (tohtech LOUNGE) が設けられた。学生サービス窓口を挟んで、ここと反対側に、カウンセリングルームを含む全学生の健康相談に対応できるウェルネスセンターも新設されている。

(2)校舎等施設の整備計画

1) 研究室、教室等の施設整備の考え方

二ツ沢キャンパスには、これまでの 1 号館、2 号館に加え、新学部のための施設として 3 号館が新築される。(現在、実施設計が進行中、平成 20 年 2 月竣工予定) これと、内部が改装される 1 号館、2 号館を加えた 3 棟によって、主要な教育施設、研究施設が整備される。この 3 棟には、資料に示したように、ライフデザイン学部のクリエイティブデザイン学科、安全安心生活デザイン学科の全教員室 (各室平均 20 m²) が入る。これに加え、全教員に卒業研修の場として研修室 (各室平均 40 m²) が確保される。それに加え、各学科、最少でも 3 室の演習室を整備する。この他に、3 棟の中には一般教室が大小あわせて 16 室用意されている。(「第 5 章校地校舎等の図面」の「(4) 新学科 3 棟平面図」参照)

香澄町キャンパスには、従来の工学部 5 学科の教員室、研修室、演習室、実験室棟が整備されている。廃止されるデザイン工学科が使用していた 5 号館の建物には、香澄町にいた共通教育担当の教員が、部屋を改装した後、入る予定になっている。

実験等に使用する器具等は、従来のものに加え、古くなった器具等を更新する。図書については大幅に増書する予定である。新学部のために設けられる研修室、実習室等については、本学で最も新しい学科の環境情報工学科で整備したものと同等の設備を整備することに加え、学科独自の設備・備品を今後4年にわたって整備していく。

2) 教育課程、授業形態、学生人数などを考慮した施設整備

新学部では届け出の2学科と認可申請予定の1学科では、座学に加え、実習、演習を多く取り入れ、体験を重視した授業形態を採用している。そのため器具等の配置に配慮し、広めの実習室を多く用意した。

また、新学部ではコミュニケーション能力、プレゼンテーションの能力の向上を強く意識した教育課程になっている。そのため、市街地中心部にあって市民に開かれた場をもつ「一番町ロビー」のギャラリーやホールも積極的に使用する。

3) 実験等の器具の整備計画

基本的には新学部の学科は物理実験や化学実験を行わない。また実習、演習室に配備する器具等は、移籍教員が、工学部の授業で使用していたものが基本的には使用できる。不足のものについては、今後4年間で順次補充していく。

(3) 図書館等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書館整備計画、整備計画冊数、学術雑誌名

これまで本学図書館は、香澄町のものを本館、二ツ沢のものを分館として整備してきた。今後は徐々に香澄町を本館兼工学部図書館として、二ツ沢を新学部図書館として整備していく。

本学の図書館の蔵書数は、両図書館を合わせ、平成19年3月現在で204,780冊である。これは大学図書館の全国平均を大きく上回っており、東北の理工系私立大学では最上位である。

これまでの選書の方針は、工学関係専門書、特に本学が開設している電子・情報通信・建築・建設システム・デザイン・環境情報の6分野の図書の体系的、網羅的な整備を目標として収集に努めてきた。とりわけ、各教員が授業で使う教科書、参考書、推薦図書、学生の希望図書を最優先として毎年更新し、利用度の高い新刊書を常に整備するように配慮している。ここ数年は、この基本方針は変えずに、特に新学部の2届け出学科、1認可申請予定学科の分野の図書の比重を高めて整備する。

学術雑誌の所蔵種類数は、和・洋合わせ1,683種類で、こちらも全国平均を上回っている。しかし、現在、雑誌購入費は、図書館資料費の80%近くを占めており、この割合の大きさが図書(単行書)費を圧迫している。新学部の学術雑誌購入にあたっては、この点にも配慮し、また新学科で必要とする学術雑誌の多くはすでに本館に整備されているので、それを新学部図書館に移すことで十分対応できる。

2) デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画

データベース等の整備については、新学部では、特に認可申請予定の経営コミュニケーション学科での整備が求められているので、そこを重点的に整備する予定である。なお本学では、学内で平成15年度以降、情報検索サービス(NACSIS-IR)利用説明会を実施しており、

多数の教員、院生、学部生がこれに参加している。なお、NACSIS-IRは、平成18年度からは新サービス CiNii(NII論文情報ナビゲータ)に引き継がれている。

また、視聴覚資料については、二ツ沢現分館が発足以来1、2年生の利用が主であったこともあって、こちらに重点的に整備してきた。現在もビデオ・レーザーディスク・CD-ROM・DVD-ROM等を系統的に収集し提供している。

3) 閲覧室、座席数、レファレンス・ルーム、検索手続き等

閲覧室の座席数は、香澄町本館・二ツ沢現分館合わせて十分な座席を確保するとともに、開館時間延長や授業開始時間に対応した柔軟な利用上の配慮を行っている。また閲覧スペースには開架図書室と、百科事典、辞書、ハンドブック、地図、年間などを集めたレファレンス・ルームが配置されている。また、蔵書検索コーナーには、東北工業大学付属図書館オンライン目録(OPEC)があり、本学蔵書の全資料が検索できるようになっている。

4) 他の大学図書館等との協力体制

本学は、私立大学図書館協会ならびに東北地区大学図書館協議会の2つの全国的、地域的図書館ネットワークに加盟している。これらの組織を通じて、リファレンスサービス、文献複写等、相互協力体制は全国的な展開がなされている。このシステムを新学部でも維持する。

8. 入学者選抜の概要

(1) クリエイティブデザイン学科

高校までの課程での理系・文系の枠を越えて両者を融合した分野で活躍したい学生を主な対象に、工学をベースとし美的センスを持った文理融合型の教育を実施するという学科の特色から、下記の入学者選抜試験を実施予定である。

① AOV入試(AO入試)(1期、2期) 募集人員 1期:25人、2期:3人

1期(10月実施予定)・・・書類(調査書または活動記録報告書)、小論文、面接で審査

2期(12月実施予定)・・・書類(調査書または活動記録報告書)、小論文、面接で審査

② 指定校推薦入試 募集人員:30人

11月実施予定・・・調査書、面接で審査

③ 専門高校・総合学科卒業生入試 募集人員:3人

12月実施予定・・・専門科目試験と面接で審査

試験科目(「デザイン基礎」または「情報技術基礎」)

④ 大学入試センター試験利用入試 募集人員:6人

2月中旬頃合格発表予定・・・個別試験は課さない

数学、国語、理科、地理歴史・公民、外国語から3教科3科目の得点で選抜予定

⑤ 一般入試(A日程) 募集人員:10人

2月実施予定・・・数学、国語、英語、理科または実技から3科目の得点で選抜予定

⑥ 一般入試(B日程) 募集人員:3人

3月実施予定・・・数学、国語、英語、理科または実技から2科目の得点で選抜予定

⑦ 社会人特別入学試験(1期、2期) 募集人員:若干名

1期・・・11月実施予定・・・書類、面接で審査

2期・・・3月実施予定・・・書類、面接で審査

なお、出願資格は、満 25 才以上で職歴のある者（ただし、高等学校を卒業または高等学校卒業と同等以上の学力があると認められ者）を予定

⑧外国人留学生特別入学試験（1期、2期）募集人員：若干名

1期・・・11月実施予定・・・書類、面接で審査

2期・・・3月実施予定・・・書類、面接で審査

AOVA入試（AO入試）では、Activity、Originality、Vitality、Ability を備えた学生を選考し、指定校推薦入試では、所定の基準以上の学力を有する学生を所属学校長の推薦のもと選考する。専門高校・総合学科卒業生入試、大学入試センター試験利用入試、一般入試（A日程）、一般入試（B日程）では、理系・文系の枠を捉われることなく学力を評価し選考する。

入学者選抜試験の選抜体制は、学長を委員長とする入学試験委員会が組織され、入学試験委員会及び教授会の審議をもって合格者を決定する。なお、この選抜体制については、既に既存の工学部において実績がある。また、入学試験問題作成は、入学試験問題特別委員会が組織され、当該委員会内に設置される各試験教科・科目担当の専門部会内の本学教員からなる問題作成委員（委員名は学内においても非公表）が担当する。入学試験問題作成においても、全科目とも既存の工学部において既に実績があり、高等学校等から体的にも良い評価を得ている。

（2）安全安心生活デザイン学科

高校までの課程での理系・文系の枠を越えて両者を融合した分野で活躍したい学生を主な対象に、工学をベースとし家政学や保健衛生学などを取り入れた文理融合型の教育を実施するという学科の特色から、下記の入学者選抜試験を実施予定である。

①AOVA入試（AO入試）（1期、2期）募集人員 1期：20人、2期：6人

1期（10月実施予定）・・・書類（調査書または活動記録報告書）、小論文、面接で審査

2期（12月実施予定）・・・書類（調査書または活動記録報告書）、小論文、面接で審査

②指定校推薦入試 募集人員：30人

11月実施予定・・・調査書、面接で審査

③専門高校・総合学科卒業生入試 募集人員：5人

12月実施予定・・・専門科目試験と面接で審査

試験科目（「デザイン基礎」または「情報技術基礎」）

④大学入試センター試験利用入試 募集人員：6人

2月中旬頃合格発表予定・・・個別試験は課さない

数学、国語、理科、地理歴史・公民、外国語から3教科3科目の得点で選抜予定

⑤一般入試（A日程）募集人員：10人

2月実施予定・・・数学、国語、英語、理科または実技から3科目の得点で選抜予定

⑥一般入試（B日程）募集人員：3人

3月実施予定・・・数学、国語、英語、理科または実技から2科目の得点で選抜予定

⑦社会人特別入学試験（1期、2期）募集人員：若干名

1期・・・11月実施予定・・・書類、面接で審査

2期・・・3月実施予定・・・書類、面接で審査

なお、出願資格は、満 25 才以上で職歴のある者（ただし、高等学校を卒業または高等学校卒業と同等以上の学力があると認められ者）を予定

⑧外国人留学生特別入学試験（1 期、2 期）募集人員：若干名

1 期・・・11 月実施予定・・・書類、面接で審査

2 期・・・3 月実施予定・・・書類、面接で審査

A O V A 入試（A O 入試）では、Activity、Originality、Vitality、Ability を備えた学生を選考し、指定校推薦入試では、所定の基準以上の学力を有する学生を所属学校長の推薦のもと選考する。専門高校・総合学科卒業生入試、大学入試センター試験利用入試、一般入試（A 日程）、一般入試（B 日程）では、理系・文系の枠を捉われることなく学力を評価し選考する。

入学者選抜試験の選抜体制は、学長を委員長とする入学試験委員会が組織され、入学試験委員会及び教授会の審議をもって合格者を決定する。なお、この選抜体制については、既に既存の工学部において実績がある。また、入学試験問題作成は、入学試験問題特別委員会が組織され、当該委員会内に設置される各試験教科・科目担当の専門部会内の本学教員からなる問題作成委員（委員名は学内においても非公表）が担当する。入学試験問題作成においても、全科目とも既存の工学部において既に実績があり、高等学校等から体的にも良い評価を得ている。

9. 自己点検・評価

（1）大学としての対応

本学における自己点検・評価は、平成 17 年度において、それまでの実施システムを改め、より機能的・流動的な自己点検・評価を行える体制に組み替え、かつ外部評価の導入を行い、次のように体制を整えた。

まず、自己点検・評価を行う体制の基本規程として、「東北工業大学の大学評価に関する規程」を定め、自己点検・評価のために組織を次の 3 委員会に整理した。

①大学評価総括委員会

理事会の下に置く委員会で、大学評価全般に関する事項を掌理する。

②大学自己評価委員会

大学、大学院及び法人部門を効率的に自己点検・評価を行うため 3 部門を置いている。

③外部評価委員会

大学が行う自己点検・評価に学外者の意見を反映させ、かつ客観性及び妥当性を保つための委員会であり、委員には、経済界、マスコミ、私立大学、国立大学、同窓会その他の分野の有識者を委嘱している。

本学の自己点検・評価は、平成 6 年度から開始し、過去 3 回の報告書をまとめ公表してきた。今般の国の認証評価機関による評価制度の導入に伴い、平成 18 年度において、大学基準協会の評価を受けた結果、同協会の「大学基準に適合していると認定する」（平成 26 年 3 月 31 日まで）との結果を得て、4 月 1 日にホームページにより大学基準協会から公開され、本学においても同じく公開した。

（2）大学以外の者による検証

前述したとおり、平成 17 年度から新しい体制に変え、その中で、外部評価委員会を発足

させた。委員会は、大学が行う自己点検・評価に客観性及び妥当性を得るために、学外有識者に意見を求め、今後の教育研究活動及び組織の運営のあり方についての提言を受けることを目的とする。」と委員会規程に定められている。

委員会は、大学評価総括委員会（委員長は理事長）の求めに応じて、毎年1回及び2回開催することになっている。今回の自己点検・評価に対しては、平成17年7月と11月に委員会を開催した。また、18年度の委員会は、平成19年2月に開催し、大学基準協会の評価（原案）と本学の新学部設置構想その他について、意見を聴取した。

なお、委員会は、評価結果及び改善を求める提言事項について、必要に応じ報告書にまとめ、総括委員会委員長に提出することになっている。

10. 教員の資質の維持向上の方策

（1）研修会および研究等の実施に関する対応

1) FD委員会での実施事項

本学は平成18年度にFD委員会を立ち上げ活動を開始した。18年度には5回の委員会を開催し、わかりやすい授業の実施、学生の授業評価、教員の学生の成績評価、新任をはじめとする教員への研修会、その他の問題を討議すると同時に、その検討結果を部局長会議、教授会で報告した。また、すぐに改善すべき問題については、教務部長や学科長を通じて直ちに実施に移している。

2) 教務委員会での実施事項

教員の授業に対する学生の評価を調査すると同時に、全教員に自らの授業を評価してもらい、それを集め、全教員による自己評価報告集「授業方法改善に関する取り組みについて」として刊行している。

また、毎年「わかりやすい授業の実施」をテーマとした学内シンポジウムを実施している。

3) その他組織での実施事項

ハラスメント防止委員会が主催して、教職員全員の参加を義務づけた講習会を実施している。

新学部においても、以上の取り組みを継続し、さらに活発化させる。